

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
1	P95	5-1-1 学校教育 5-1-2 教育連携 5-1-3 心の教育	<p>全体の文章を読んでみても行政的に上から生徒をこういうふうに育てるといふ形が多いが、今の生徒の本当の実態というのはこうであるとか、なぜ今こんなに子供たちが学校に足が遠のくのか、といったことなどの実態把握からまずは入るべきではないか。だから、事業の目指すものではなく、学びをどうするかという生徒の視点からでなければいけない。今度のこども基本法でも、子供にとって最善の利益と書かれている。つまり、主体は子供。この文章にもそういうのがにじみ出ているが、何となく上からの目線で見ているような感じの文章が多い。</p> <p>今度の高校再編でも学びの改革が出てくる。少子高齢化で規模が維持できなくて困った、これでは学校が成り立たないから統合となるが、その一方で学校は学びの場である。事業がどうだということばかり文章にかいてあるが、何を子供が主体的に学んでいるのかが出てこないと非常に寂しい。</p>			総合計画は、市の行う取組をまとめているためご指摘のような表現となっておりますが、総合計画の推進にあたっては、伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」の視点に立ち、学ぶ人に発し学ぶ人に還る、子どもに発し子どもに還るものとするよう努めて参ります。	教育委員会
2			<p>教育分野になると枠組としてわかりにくいのが、高校は県、大学は大学、小学校中学校は市のものだから、小学校中学校の教育は市としてのことで、高校については市が県や地域の高校に対して関わっていくこととしてになるので、関わり方が重層的というか、複雑になっていてわかりにくい。そういう意味では子供側視点で、子供がどうするか、行政としてどうやるかというところで整理した方が全体がすっきりするのではないか。</p>				
3	P95	5-1-1 学校教育	<p>高校再編に関して、伊那新校や技術新校と関連した学園構想について記載したらどうか。</p>			<p>高校再編によるまちづくりについては、第6章第1節第2項の住宅・住環境で触れられています。また、地域の高校等との連携については、本章の教育連携に記載してありますので、伊那新校や技術新校とも連携した取組を進めて参ります。</p>	教育委員会
4	P95	5-1-1 学校教育	<p>【前期基本計画での主な取組】 ○学校、家庭、地域、産業界、行政が協働して<u>キャリア教育</u>の取組を推進しました。</p> <p>【後期基本計画における施策と展開方針】 1 学校教育の充実 ○事前・事後学習等を通じて、生徒一人ひとりに目的意識を持たせるための支援を行いながら、職場体験学習や伊那市中学生キャリアフェスを実施するとともに、小学生の職業選択の意識付けに向けた授業の企画などにより、<u>キャリア教育の取組</u>を推進します。</p> <p>5 学校・家庭・地域の連携強化 ○「総合的な学習の時間」や「暮らしのなかの食」、<u>キャリア教育</u>など、多くの機会を通じて、これまで築いてきた地域との活動に継続して取り組みます。</p> <p>⇒「キャリア教育の取組～」とあるが、キャリア教育の目指すものが何かが判然としない（網羅的すぎて）。</p>			<p>【前期基本計画での主な取組】 ○伊那市では、子どもたちが社会的・職業的に自立して社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を身につけることをキャリア教育の目的としています。</p>	教育委員会
5	P95	5-1-1 学校教育 【前期基本計画での主な取組】	<p>○子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい本市らしい総合的な学習を推進しました。</p> <p>⇒「郷土学習読本「わたしたちのふるさと」の作成、活用により」を加えたらどうか。 ○子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、<u>郷土学習読本「わたしたちのふるさと」の作成、活用により</u>地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい本市らしい総合的な学習を推進しました。</p>	<p>○子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい本市らしい総合的な学習を推進しました。</p>	<p>○子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、<u>郷土学習読本「わたしたちのふるさと」の活用により</u>地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい本市らしい総合的な学習を推進しました。</p>	<p>ご指摘のとおり変更したいと考えます。 ※郷土学習読本「わたしたちのふるさと」の作成は、平成28年度に行っているため、「作成、」は削除させていただきます。</p>	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
6	P95	5-1-1 学校教育	<p>【施策分野における現状と課題】</p> <p>○児童生徒が情報モラルを身につけ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報伝達手段を活用できるようにするため、機器の整備を進めながら、情報教育に関する学習活動を充実するとともに、新学習指導要領に対応する教材備品を整備していく必要があります。</p> <p>【後期基本計画における施策と展開方針】</p> <p>1 学校教育の充実</p> <p>○学校におけるICT環境の整備により、情報機器を正しく利用するための情報モラル教育を進めるとともに、デジタル教科書やAIドリルの活用、プログラミング教育など、新学習指導要領に沿った基本的な情報活用能力の育成にむけた取組を推進します。</p> <p>⇒情報モラルはどのような意味か。「伊那市子どもの未来応援計画」にあるような例、意味をさすのか。</p>			<p>児童生徒がICTを適切に活用し、自分を守り他人を傷つけないための知識や技術全般を指しています。</p> <p>自分や他人の個人情報を尊重し適切に取り扱うこと、安全なパスワード管理、インターネットの安全な利用、他人の作品を尊重し侵害しないこと（著作権保護）、オンラインでの適切なコミュニケーション、ICT利用における健康面で知るべきこと等が挙げられます。</p>	教育委員会
7	P95	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】 【後期基本計画における施策と展開方針】	<p>【施策分野における現状と課題】</p> <p>中学における部活動の地域移行については、大きな課題であると思うので、記述が必要ではないか。</p> <p>【後期基本計画における施策と展開方針】</p> <p>5 学校・家庭・地域の連携強化 の中に、そのことへの施策と展開方針を述べる必要があるのではないか。</p>	<p>【施策分野における現状と課題】</p> <p>記載なし</p> <p>【後期基本計画における施策と展開方針】</p> <p>5 学校・家庭・地域の連携強化</p> <p>○教職員の長時間勤務の解消に向け、長野県教育委員会など関係機関と協力し、分業化、協業化、効率化を進める「働き方改革」を推進します。</p>	<p>【施策分野における現状と課題】</p> <p>○教職員の働き方改革が求められるなか、中学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行を進めていく必要があります。</p> <p>【後期基本計画における施策と展開方針】</p> <p>5 学校・家庭・地域の連携強化</p> <p>○教職員の長時間勤務の解消や教員のなり手不足の対応として働き方改革が求められており、長野県教育委員会など関係機関、関係団体等と協力・連携し、分業化、協業化、効率化を進めます。また、庁内関係部署、文化芸術団体、スポーツ団体等と連携して、中学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行を推進します。</p> <p>(No.20と同趣旨による修正)</p>	<p>ご指摘のとおり変更したいと考えます。</p>	教育委員会
8	P96	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】	<p>○就学前教育と小学校とのギャップによる「小1プロブレム」や中学校生活になじめずに不登校となる「中1ギャップ」の問題を解消するために、幼保小中の連携による指導の充実が求められています。</p> <p>⇒現在、取り組んでいるのではないか。更なる充実ということか。</p>			<p>現在も取組を行っていますが、特に幼保小連携については、伊那市幼保小連携プログラム策定以降に、文部科学省の架け橋プログラムや長野県の園・小接続カリキュラムの開発などが行われています。引き続き課題の解決のため、これらを参考により良いプログラムとなるよう見直しを行う等、取組を更に充実していく必要があると考えています。</p>	教育委員会
9	P96	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】	<p>小1プロブレムの実態はどうか。接続プログラムの取組によっても現状は改善されていないのか。</p>			<p>伊那市幼保小連携プログラムの実施により、一定の成果は出ていますが、時代の変化とともに課題の質と内容も変化してきています。引き続き課題解決のため、プログラムの見直しを行い、取組を継続していくことが大切であると考えています。</p>	教育委員会
10	P96	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】	<p>○生活リズムの乱れが見られる子どもや、一人で食事をとる子どもが増えています。児童生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせ、家族とともに食卓を囲む時間を過ごし、心と体を健やかに育成することが求められています。</p> <p>⇒食事の回数や朝食を毎日食べる割合が貧困層ほど低いといった観点も大切ではないか。（「伊那市子どもの未来応援計画」が参考になる）</p>			<p>例年、食生活や生活習慣に関するアンケートにより食事のとり方等を調べていますが、食事の回数と貧困層という観点での調査は実施していないため、新しい視点でどのような調査が有効か検討してみたいと考えます。</p>	教育委員会
11	P96	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】	<p>○生活リズムの乱れが見られる子どもや、一人で食事をとる子どもが増えています。児童生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせ、家族とともに食卓を囲む時間を過ごし、心と体を健やかに育成することが求められています。</p> <p>⇒この課題に対する施策が見当たらない。</p>			<p>ご指摘の課題に対する施策は、「後期基本計画における施策と展開方針の5学校・家庭・地域の連携強化」に記載の「早寝、早起き、朝ごはん」また「ノーテレビ・ノーゲームデー」としているところです。</p>	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
12	P96	5-1-1 学校教育 【施策分野における現状と課題】	○少子化により児童生徒数が減少している学校があることから、通学区の見直しなど、学校の適正配置を慎重に検討していく必要があります。 ⇒児童数の減少は、学校によるものではなく、全体的に言えることではないか。 児童生徒数が減少していることからとしては、どうか。	○少子化により児童生徒数が減少している学校があることから、通学区の見直しなど、学校の適正配置を慎重に検討していく必要があります。	○少子化により児童生徒数が減少していることから、通学区の見直しなど、学校の適正配置を慎重に検討していく必要があります。	ご指摘のとおり変更したいと考えます。	教育委員会
13	P96	5-1-1 学校教育	【施策分野における現状と課題】 ○少子化により児童生徒数が減少している学校があることから、通学区の見直しなど、学校の適正配置を慎重に検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置 ○児童生徒数の減少を踏まえ、伊那市ならではの特色のある教育を推進するための学校の適正な規模・配置について、地理的な状況等も勘案しながら検討を進めます。 ⇒表現の整合を図るべきではないか。	【施策分野における現状と課題】 ○少子化により児童生徒数が減少している学校があることから、通学区の見直しなど、学校の適正配置を慎重に検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置 ○児童生徒数の減少を踏まえ、伊那市ならではの特色のある教育を推進するための学校の適正な規模・配置について、地理的な状況等も勘案しながら検討を進めます。	【施策分野における現状と課題】 ○少子化により児童生徒数が減少していることから、通学区の見直しなど、学校の適正な規模・配置を慎重に検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置 ○児童生徒数の減少を踏まえ、伊那市ならではの特色のある教育を推進するための学校の適正な規模・配置について、地理的な状況等も勘案しながら検討を進めます。	「学校の適正な規模・配置」に表現を統一したいと考えます。	教育委員会
14	P96	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 1 学校教育の充実	○子どもたちの「生きる力」や「自分の学ぶ力に対する自信」を育み、豊かな人間性を身につけられるようにするため、本市の自然や文化、伝統、産業などにかかわる体験的な学習の取組である「総合的な学習の時間」を推進します。 ⇒○子どもたちの「生きる力」や「自分の学ぶ力に対する自信」を育み、豊かな人間性を身につけられるようにするため、本市の自然や文化、伝統、産業などにかかわる体験的・探究的な学習の取組である「総合的な学習の時間」を推進します。 としてはどうか。	○子どもたちの「生きる力」や「自分の学ぶ力に対する自信」を育み、豊かな人間性を身につけられるようにするため、本市の自然や文化、伝統、産業などにかかわる体験的な学習の取組である「総合的な学習の時間」を推進します。	○子どもたちの「生きる力」や「自分の学ぶ力に対する自信」を育み、豊かな人間性を身につけられるようにするため、本市の自然や文化、伝統、産業などにかかわる体験的・探究的な学習の取組である「総合的な学習の時間」を推進します。	ご提案のとおり追記します。	教育委員会
15	P96	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】	運動能力、学習能力、コミュニケーション能力、認知能力等、社会性、自己肯定感、身のこなし等の向上・改善を図る取組につながる内容を入れることはできないか。(コーディネーショントレーニングを想定)		1 学校教育の充実 ○児童生徒の学習能力、運動能力、コミュニケーション能力、社会性、自己肯定感等の向上・改善に向けた取組を推進します。	新たな視点でのご提案であり、施策と展開方針へ追記します。	教育委員会
16	P97	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 安心安全な給食と食育の推進	○地元の農産物等を利用することにより、地産地消を進めながら、学校給食の充実を図るとともに、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」を推進し、児童生徒が食物生産に関わる循環型社会のあり方を体験できるよう努めます。 ⇒循環型社会の意味が理解できるのか。			「暮らしのなかの食」の核となる「育てる・採る・収穫する」「調理する」「いただく」「地域、家庭とつながる」という行動を、円相(図形の円を一筆で書き上げたもの)に載せ描いた絵を見せることで、視覚的に循環を感じてもらいたいと考えます。	教育委員会
17	P97	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 安心安全な給食と食育の推進	第6回審議会を経て、第4章に上記のとおり追記されたので、第5章においても記載の検討を。	○地元の農産物等を利用することにより、地産地消を進めながら、学校給食の充実を図るとともに、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」を推進し、児童生徒が食物生産に関わる循環型社会のあり方を体験できるよう努めます。	○地元の農産物等の地産地消、有機農産物の利用等を進めながら、学校給食の充実を図るとともに、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」を推進し、児童生徒が食物生産に関わる循環型社会のあり方を体験できるよう努めます。	第5章においても有機農産物の利用について記載することとします。	教育委員会
18	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	これまで非構造部材耐震化に取り組んできているが、今後耐震化を行う内容は何か。 明記するか、タイトルを変更するべきではないか。	4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	4 学校施設の長寿命化と適正配置	非構造部材耐震化については、市内全小中学校の体育館が完了しました。現在は、長寿命化対策を進めています。タイトルを変更します。	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
19	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	○小中学校の安全性や快適性の向上を図るため、校舎の大規模改修工事等建物の長寿命化工事を実施するとともに、暑さ対策に取り組みます。 ⇒すでに取り組んでいるのではないかと。また、寒さ対策についての記載はない。この箇所は削除してもよいのではないかと。	○小中学校の安全性や快適性の向上を図るため、校舎の大規模改修工事等建物の長寿命化工事を実施するとともに、暑さ対策に取り組みます。	○小中学校の安全性や快適性の向上を図るため、校舎の大規模改修工事等建物の長寿命化工事を実施します。	前段に「快適性の向上」との文言もあることから、ご指摘のとおり削除したいと考えます。	教育委員会
20	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 5 学校・家庭・地域の連携強化	○教職員の長時間勤務の解消に向け、長野県教育委員会など関係機関と協力し、分業化、協業化、効率化を進める「働き方改革」を推進します。 ⇒勤務実態の分析こそ必要で、教職員の増加の必要、教員不足(教職員のなり手不足)の課題についても触れたい。 ※教化外活動(部活動)のあり方についても、教職員の勤務のあり方や部活動の地域移行など、幅広い視野での検討が必要である。	○教職員の長時間勤務の解消に向け、長野県教育委員会など関係機関と協力し、分業化、協業化、効率化を進める「働き方改革」を推進します。	○教職員の長時間勤務の解消や教員のなり手不足の対応として働き方改革が求められており、長野県教育委員会など関係機関、関係団体等と協力・連携し、分業化、協業化、効率化を進めます。また、庁内関係部署、文化芸術団体、スポーツ団体等と連携して、中学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行を推進します。 (No.7と同じ修正)	文言を改めます。	教育委員会
21	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 5 学校・家庭・地域の連携強化	○地域の教育力が学校の教育活動の充実につながるよう「信州型コミュニティ・スクール」に取り組み、地域住民や保護者の持続的な学校運営への参画を図りながら、地域とともにある学校づくりを進めます。 ⇒学校評議員制度の実施についてもふれたい。(伊那市誌の教育編の会議では、実施していないとの報告もあるやに聞いているが、実態はどうか。)	○地域の教育力が学校の教育活動の充実につながるよう「信州型コミュニティ・スクール」に取り組み、地域住民や保護者の持続的な学校運営への参画を図りながら、地域とともにある学校づくりを進めます。	○地域の教育力が学校の教育活動の充実につながるよう「コミュニティ・スクール」に取り組み、地域住民や保護者の持続的な学校運営への参画を図りながら、地域に開かれた学校づくりを進めます。	○文言は、ご指摘を踏まえて修正します。また、コミュニティ・スクールは様々な形態があることから、「信州型」に限定しないよう改めます。 ○学校評議員 伊那市では全校で信州型コミュニティ・スクールを導入しています。一方、「学校評価」は、「学校評議員」と「信州型コミュニティ・スクール運営委員会双方の役割としてが位置付けられています。このため、伊那市では、事務の簡素化の観点から、「学校評議員」の選任は学校長の判断に任せ、選任は任意としています。	教育委員会
22	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 5 学校・家庭・地域の連携強化	○これからの学校のあり方について考えていくため、森との関わりを大切にするフィンランド教育の調査研究を進めます。 ⇒フィンランド教育という言葉が唐突に出てきている感がある。これからの学校のあり方とどうつながるのか。また、森との関わりを大切にするための教育ならば、林業の箇所に書くべきではないかと。	○これからの学校のあり方について考えていくため、森との関わりを大切にするフィンランド教育の調査研究を進めます。	○伊那市の自然を生かした実践的な学習について、身近にある森林等の豊かな自然環境を生かした実践から学ぶフィンランド教育等を参考に研究を進めます。	伊那市は、フィンランド北カルラヤ県と林業等に係る覚書を締結しています。フィンランドの教育では身近にある森林等の豊かな自然環境を生かした実践から学ぶ教育を重視しています。そうした取り組みを学び、伊那市の教育の参考としていきたいと考えています。	教育委員会
23	P98	5-1-1 学校教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 5 学校・家庭・地域の連携強化	○これからの学校のあり方について考えていくため、森との関わりを大切にするフィンランド教育の調査研究を進めます。 ⇒フィンランドについては森との関わりだけに限定せず、しかも他の領域でも諸外国の動向に学ぶ姿勢が大切ではないかと。	○これからの学校のあり方について考えていくため、森との関わりを大切にするフィンランド教育の調査研究を進めます。			教育委員会
24	P99	5-1-1 学校教育 【まちづくり指標(KPI)】	A I ドリルの取組問題数(小学校) ⇒65/児童(人)とはどういう意味か。また、この数値があることは学校教育の充実とどう結びつくのか。	まちづくり指標(KPI) ○AIドリルの取組問題数	まちづくり指標(KPI) ○1か月一人当たりの平均時間外勤務時間が45時間以下の学校の割合 2022:81.0% → 2028:100%	数値は、一人当たりの年間回答単元数となります。個人の学力向上に資するものと考え設定をしましたが、目標とする値の設定根拠も曖昧であるので、KPIを別項目にて提案いただいた教職員の長時間勤務の実態に関するKPI指標となる「1か月一人当たりの平均時間外勤務時間が45時間以下の学校の割合」に変更します。	教育委員会
25	P99	5-1-1 学校教育 【まちづくり指標(KPI)】	指標をねらいに沿ったものに変えられないか。 【後期基本計画における施策と展開方針】 5 学校・家庭・地域の連携強化 ○教職員の長時間勤務の解消に向け、長野県教育委員会など関係機関と協力し、分業化、協業化、効率化を進める「働き方改革」を推進します。 に関連して、「教職員の長時間勤務の実態」などはいかがか。			ご提案いただいた教職員の長時間勤務の実態に関するKPI指標となる「1か月一人当たりの平均時間外勤務時間が45時間以下の学校の割合」に変更します。 【変更理由等】 ・「伊那市小中学校職員の勤務時間等に関する規程」において、「教育職員の健康及び福祉の確保を図ることにより学校教育の水準の維持向上に資するため」1か月当たりの時間外勤務時間を45時間の範囲内とすることが定められている。 ・本総合計画にも新たに盛り込むこととなった部活動の地域連携、地域クラブへの移行の目的の一つが、教職員の負担軽減であること。	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
26	P100	5-1-2 教育連携	高校再編についての情報が児童生徒・保護者に届きにくい実態がある。例えば県の再編に係る情報が伊那市のHPでもわかりやすく閲覧できるなど工夫できないか。			高校再編に関する情報発信については、本年4月に県に対して要望しており、市町村の広報誌や回覧板等による情報発信も考えたい旨の回答がありましたので、県と連携して情報発信を検討していきます。	教育委員会
27	P100	5-1-2 教育連携 【施策分野における現状と課題】	○長野県による「学びの改革」により、高等学校再編の議論が進められていますが、先進的で時代の変化を創造する魅力的な高等教育や、地理的な理由によって生徒が不利にならないような配慮が求められています。 ⇒もう少し工夫した表現がないか。	○長野県による「学びの改革」により、高等学校再編の議論が進められていますが、 <u>先進的で時代の変化を創造する魅力的な高等教育や、地理的な理由によって生徒が不利にならないような配慮が求められています。</u>	○長野県による「学びの改革」により、高等学校再編の議論が進められていますが、 <u>時代に即した人材育成や、地理的な理由によって生徒が不利にならないような配慮が求められています。</u>	表現を改めます。	教育委員会
28	P100	5-1-2 教育連携 【施策分野における現状と課題】	○信州大学との地域連携や、高遠町出身の伊澤修二が初代校長を務めた縁で交流が続く東京藝術大学等の大学や、市内高等学校との連携を通じ、 <u>専門性のある教育を受ける環境を創出することが求められています。</u> ⇒これはどういった意味か。			学習する、体験する、つくる、交流するなどの活動を通して総合的な学習、創造的な活動に取り組んでおり、より専門性のある大学、高校と連携して活動できる環境を整える中で、それらの活動を補おうとするものです。	教育委員会
29	P100	5-1-2 教育連携 【施策分野における現状と課題】	○信州大学との地域連携や、高遠町出身の伊澤修二が初代校長を務めた縁で交流が続く東京藝術大学等の大学や、市内高等学校との連携を通じ、 <u>専門性のある教育を受ける環境を創出することが求められています。</u> ⇒「専門性を高める」としてがどうか。	○信州大学との地域連携や、高遠町出身の伊澤修二が初代校長を務めた縁で交流が続く東京藝術大学等の大学や、市内高等学校との連携を通じ、 <u>専門性のある教育を受ける環境を創出することが求められています。</u>	○信州大学との地域連携や、高遠町出身の伊澤修二が初代校長を務めた縁で交流が続く東京藝術大学等の大学や、市内高等学校との連携を通じ、 <u>専門性を高める教育を受ける環境を創出することが求められています。</u>	ご指摘のとおり、表現を改めます。	教育委員会
30	P101	5-1-2 教育連携 【まちづくり指標 (KPI) 】	地域の高等学校や大学などと連携して学習を実施している小中学校 ⇒教育連携の質・地域への愛着を生む教育を示すものとなるのか。 例えば、「地域の高等学校や大学などと連携したキャリア教育の推進校数」等と絞るのはどうか。			連携の実践として高遠高校生による書画の指導や東京芸術大学生による音楽の指導等の学習支援を受けているものであり、キャリア教育に限らないことから、原案のとおりとしたいと考えます。	教育委員会
31	P102	5-1-3 心の教育 【施策分野における現状と課題】	○保護者の精神疾患やギャンブル依存、養育力不足のためゲーム依存などの不適切な環境におかれている子どもが増加しています。そのため、自助・共助力が乏しく、愛着不足、養育力の低下が大きな問題であり、この解決のため地域での支援などが課題であると考えられます。 ⇒文章表現をもう少し工夫したい。				教育委員会
32	P103	5-1-3 心の教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 1 不登校対策の推進	最近の不登校・自殺などがそれほど減少しない実態と原因の把握がまず大切。それを踏まえてこそ対策が立てられるのではないか。 5-1-4 青少年健全育成・家庭教育【施策分野における現状と課題】の居場所にも関わってくる。	1 不登校対策の推進 ○不登校児童生徒を支援するため、子ども相談室や中間教室を中心に、学校・家庭・地域・関係機関が連携した相談・支援体制の一層の充実を図ります。	1 不登校対策の推進 ○不登校児童生徒を支援するため、 <u>不登校の実態とその原因を把握するとともに、子ども相談室や中間教室を中心に、学校・家庭・地域・関係機関が連携した相談・支援体制の一層の充実を図ります。</u>	【後期基本計画における施策と展開方針】に、「不登校の実態とその原因の把握」について、追記します。	教育委員会
33	P103	5-1-3 心の教育 【まちづくり指標 (KPI) 】	「いじめを教える、相談する」について、客観データとしての信頼度はどうか。 公表されているいじめ件数の現状値と目標値としてはどうか。			当該調査については、児童生徒自身が回答しており、実態把握に有効なものと考えています。(いじめ件数については、目標値の設定が難しいこと(本来0件を設定すべき)、年度間の件数の変動が大きいことなどから指標としては難しいと考えます。)	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
34	P104	5-1-4 青少年健全育成・家庭教育	全体的に「生徒の健全育成」という観点、P96【後期基本計画における施策と展開方針】1 学校教育の充実にある「はじめに子どもありき」の理念の実現に直結する。それには教育現場で国連の「児童の権利条約」にある「子どもの最善の利益」「生徒の意見表明権の保証」といったキーワード、生徒の主体的な行動を促し、自ら考え行動する習慣の涵養を大切に教育理念と配慮・感覚が大切ではないか。具体例では生徒会活動の活発化、最近話題となっている校則に関しては意見の表明と決定のプロセスを重んじることなどである。勿論、父母・地域の支えがあってこそである。				教育委員会
35	P105	5-1-4 青少年健全育成・家庭教育 【後期基本計画における施策と展開方針】 1 子どもの居場所と安心安全の確保	公民館に関する記載は必要はないか。	P105 1 子どもの居場所づくりと… ○子どもの居場所づくりに必要なスタッフの確保に対応すべく支援者登録の推進に努めます。	P105 1 子どもの居場所づくりと… ○各公民館の特色を生かした子ども対象の公民館講座等により、子どもの居場所づくりに取り組むとともに、必要なスタッフの確保に対応すべく支援者登録の推進に努めます。	ご提案のとおり、記載を加えました。	教育委員会
36	P105	5-1-4 青少年健全育成・家庭教育 【まちづくり指標 (KPI)】	公民館子ども対象講座の参加者数 ⇒2022年度の現状値842人、2028年度の目標値900人となっているが、年間延べ人数がこの程度なのかと思ひ、前期計画の数値をみると、2016年度実績値が4,552人、2023年度目標値が5,400人となっている。2022年度はコロナ対策で利用制限をしたから減ったのかと思ひしたが、2028年度目標値も900人なので、どちらかの数字がおかしいのではないか確認をいただきたい。	備考 (数値根拠) 年間延べ人数	備考 (数値根拠) 講座参加者数	前回の数字(2016年度の4,552人、2023年度目標の5,400人)は各講座の「のべ人数」を積算しています。今回は「講座参加者数(参加登録者数)」を記載しております。「年間延べ人数」を「講座参加者数」に修正します。	教育委員会
37	P106	5-2-1 生涯学習 【前期基本計画での主な取組】 ◆公民館◆	モバイル公民館の導入について記載すべきではないか。	P106 ◆公民館 ○(略) ○(略)	P106 ◆公民館 ○(略) ○(略) ○モバイル公民館を整備し、事業を開始しました。	ご提案のとおり、モバイル公民館の導入についての記述を加えました。	教育委員会
38	P106	5-2-1 生涯学習 【前期基本計画での主な取組】 ◆生涯学習センター◆	○生涯学習の拠点として、市民一人ひとりが自己実現できるよう、市民大学のほか各種自主講座を開催するとともに、様々な活動の場として、会議室、ギャラリー、ホールなど施設の貸出を行いました。 ⇒駒ヶ根市も市民大学があるので、伊那市は「まほらいな市民大学」と明記したほうがよいのではないか。また、今は大学院とセットになっているので、「まほらいな市民大学・大学院」としてはどうか。	○生涯学習の拠点として、市民一人ひとりが自己実現できるよう、市民大学のほか各種自主講座を開催するとともに、様々な活動の場として、会議室、ギャラリー、ホールなど施設の貸出を行いました。	○生涯学習の拠点として、市民一人ひとりが自己実現できるよう、まほらいな市民大学・大学院のほか各種自主講座を開催するとともに、様々な活動の場として、会議室、ギャラリー、ホールなど施設の貸出を行いました。	ご提案のとおり、修正します。	教育委員会
39	P107	5-2-1 生涯学習 【施策分野における現状と課題】 ◆生涯学習・社会教育◆	○誰もが生涯学習に取り組むことのできる環境を充実させるため、生涯学習基本構想に基づき、具体的な目標設定を行い、事業を展開する必要があります。 ⇒誰がどのように行うのか。また、この部分に関する施策の記載がない。	○誰もが生涯学習に取り組むことのできる環境を充実させるため、生涯学習基本構想に基づき、具体的な目標設定を行い、事業を展開する必要があります。	○誰もが生涯学習に取り組むことのできる環境を充実させるため、生涯学習基本構想に基づき、それぞれの部署において具体的な目標設定を行い、事業を展開する必要があります。	生涯学習基本構想に基づき、行政のそれぞれの部署において施策を行っていきます。記載については、ご意見のとおり修正します。	教育委員会
40	P107	5-2-1 生涯学習	【施策分野における現状と課題】 ◆生涯学習・社会教育◆ ○様々な社会教育施設の状況を考慮し、それぞれについて適切な維持管理運営体制を検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な管理運営に努めるとともに、施設の長寿命化を図るため、老朽化した施設の改修等を行います。 ⇒「適切」と「適正」は異なるのか。	【施策分野における現状と課題】 ◆生涯学習・社会教育◆ ○様々な社会教育施設の状況を考慮し、それぞれについて適切な維持管理運営体制を検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な管理運営に努めるとともに、施設の長寿命化を図るため、老朽化した施設の改修等を行います。	【施策分野における現状と課題】 ◆生涯学習・社会教育◆ ○様々な社会教育施設の状況を考慮し、それぞれについて適切な維持管理運営体制を検討していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適切な管理運営に努めるとともに、施設の長寿命化を図るため、老朽化した施設の改修等を行います。	「適切」に統一します。	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
41	P107	5-2-1 生涯学習 【施策分野における現状と課題】 ◆公民館◆ 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進	【施策分野における現状と課題】 ◆公民館◆ ○通学合宿、おいで塾の実施にあたっては、学習支援等のスタッフが不足していることから、信州大学、市内高校、社会福祉協議会等との連携を強化し、スタッフを確保していく必要があります。 ⇒「おいで塾」は、各公民館で名称が違うので、「夏休み小学生の教室」とされたい。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○通学合宿、夏休みおいで塾などにおけるボランティアスタッフ体制の充実を図るため、社会福祉協議会をはじめ信州大学、市内高等学校、中学校などへ支援体制の強化に向けた働きかけを行います。 ⇒「夏休みおいで塾」も「夏休み小学生の教室」とされたい。	【施策分野における現状と課題】 ◆公民館◆ ○通学合宿、おいで塾の実施にあたっては、学習支援等のスタッフが不足していることから、信州大学、市内高校、社会福祉協議会等との連携を強化し、スタッフを確保していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○通学合宿、夏休みおいで塾などにおけるボランティアスタッフ体制の充実を図るため、社会福祉協議会をはじめ信州大学、市内高等学校、中学校などへ支援体制の強化に向けた働きかけを行います。	【施策分野における現状と課題】 ◆公民館◆ ○通学合宿、夏休み小学生の教室の実施にあたっては、学習支援等のスタッフが不足していることから、信州大学、市内高校、社会福祉協議会等との連携を強化し、スタッフを確保していく必要があります。 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 公民館活動の推進 ○通学合宿、夏休み小学生の教室などにおけるボランティアスタッフ体制の充実を図るため、社会福祉協議会をはじめ信州大学、市内高等学校、中学校などへ支援体制の強化に向けた働きかけを行います。	ご提案のとおり、修正します。	教育委員会
42	P107	5-2-1 生涯学習 【施策分野における現状と課題】 ◆生涯学習センター◆	○生涯学習の拠点施設として、より効率的な運営を図るため、指定管理者による運営形態について検討していく必要があります。また、施設の改修や更新を計画的に進めていく必要があります。 ⇒学校の適正配置等の検討の文章にあるよう「慎重に」を入れたほうがいいのではないかと。			学校の適正配置等の検討のように、通学区の見直しなどデリケートな内容ではなく、積極的に取り組んでいく内容であり、「慎重に」という文言を記載しなくてもよいと考えます。	文化スポーツ部
43	P108	5-2-1 生涯学習 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 図書館の充実	○地域の「知の拠点・情報拠点」として、図書や情報資料の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携や電子図書館の充実などにより、利用者の利便性向上に努めます。 ⇒是非とも市の諸分野における電子化の検討と関連して進めてほしい。デジタル化も同様である。			伊那市では、DXの推進に取り組んでおり、各分野において必要なデジタル化を図ってまいります。	事務局
44	P109	5-2-1 生涯学習 【まちづくり指標 (KPI) 】	公民館利用者数 ⇒前期計画の現状値・目標値から大きく減少している。コロナ等の関係でやむを得ないが、新築公民館もあり、公民館利用者数については、せめて前回並みくらいの目標値にできないかと。	目標人数 150,000人	目標人数 170,000人	公民館利用者数ですがコロナ前は16~17万人台で推移していましたので、前回並みの目標値に修正します。	教育委員会
45	P110	5-2-2 文化・芸術	伊那市は適正な学芸員の配置がない。古代は専門家がいますが、近世がない。あと2,3人は欲しい。予算があるものなので無理は言えないが、適正な人員と専門家を配置しなければいけない。			学芸員の配置については、状況を見ながら引き続き適正な配置に努めていきます。	教育委員会
46	P110	5-2-2 文化・芸術 【前期基本計画での主な取組】	○直営方式による運営を続ける中で、指定管理者制度の導入検討も含め、より効率の良い施設運営の方法について検討を行いました。 ⇒伊那市全体のことのように見える。特定の施設についてのことであれば、施設名を入れる等をしてもう少し具体的に示してはどうか。	○直営方式による運営を続ける中で、指定管理者制度の導入検討も含め、より効率の良い施設運営の方法について検討を行いました。	○各施設について直営方式による運営を続ける中で、指定管理者制度の導入検討も含め、より効率の良い施設運営の方法について検討を行いました。	施設名を「各施設」とし、修正します。	教育委員会
47	P110	5-2-2 文化・芸術 【前期基本計画での主な取組】	○市町村合併や社会情勢の変化、新たな調査結果等伊那市のあゆみをまとめる「新市誌」の編さんに取り組みました。 ⇒○市町村合併や社会情勢の変化、新たな調査結果等伊那市のあゆみをまとめる伊那市誌の編さんに着手しました。と、したい。	○市町村合併や社会情勢の変化、新たな調査結果等伊那市のあゆみをまとめる「新市誌」の編さんに取り組みました。	⇒○市町村合併や社会情勢の変化、新たな調査結果等伊那市のあゆみをまとめる伊那市誌の編さんに着手しました。	ご提案のとおり修正します。	教育委員会

第2次伊那市総合計画後期基本計画(原案)に対する意見整理表(協議後)

資料No.1-1-2

令和5年10月27日 第7回審議会

【第5章】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局または事務局の考え方	担当部局
48	P112	5-2-2 文化・芸術 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 文化財の保存・継承・活用	○文化遺産や歴史資料の調査・研究を進め、特に重要なものについては文化財指定を視野に入れながら、保存に努めます。 ⇒新伊那市誕生以降、3地域の文化財指定の基準の見直しと点検がなされていない。文化財審議会の開催が喫緊に必要であるし、指摘のとおり調査研究による新たな指定が望まれる。			旧市町村で指定を受けた文化財は、そのまま新市に引き継ぐこととされており、現在、市の指定文化財となっています。 合併時に「伊那市文化財保護条例施行規則」で指定基準を定め、文化財審議委員会で指定しています。新市発足後、5件をあたりに指定しました。今後、文化財の点検や新たな指定について取り組んでまいります。	教育委員会
49	P112	5-2-2 文化・芸術 【後期基本計画における施策と展開方針】 2 文化財の保存・継承・活用	○伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、伊那市の発展に資するための「新市誌」の編さんを推進します。 ⇒「伊那市誌」としたい。	○伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、伊那市の発展に資するための「新市誌」の編さんを推進します。	○伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、伊那市の発展に資するための「伊那市誌」の編さんを推進します。	ご提案のとおり修正します。	教育委員会
50	P112	5-2-2 文化・芸術 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 文化芸術施設の充実及び活用	○貴重な資料の保存や活用を図るため、専任の職員体制の配置や、職員の資質向上に取り組みます。 ⇒どの施設のどの分野に何人ほど必要かを検討し取り組みたい。(各施設の要望をまず把握したい。)			学芸員の配置について、各施設の状況を把握し、適正な配置に努めたいと考えています。	教育委員会
51	P112	5-2-2 文化・芸術 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 文化芸術施設の充実及び活用	○増加する資料や作品を適正に保管していくため、保管場所や保管方法について、検討を進めます。また、老朽化が見られる施設の改修を進め、施設の長寿命化を図ります。 ⇒伊那弥生ヶ丘高校跡校舎の利用も視野に入れたらどうか。			具体的な場所等については、今後検討していきます。計画の中では、個別の名称は記載しないこととします。	教育委員会
52	P112	5-2-2 文化・芸術 【後期基本計画における施策と展開方針】 3 文化芸術施設の充実及び活用	○古文書の適正な管理とデジタル化を進めるため、専門知識を有した職員の配置や、計画的な作業の進行に努めます。また、地域おこし協力隊と連携して、資料を活用したイベントを実施します。 ⇒今後は古文書に限らず、伊那市域の史資料のデジタル化を構想すべきである。地域おこし協力隊と連携とあるが、協力隊にそこまで期待できるのか。他地域の事例も調べるなどして構想してほしい。ゆくゆくは文書館等の設置を展望したいし、公文書管理条例の制定も視野に入れたいものである。※昨今は文化・芸術・スポーツ分野の予算の確保が課題となっている。			令和5年度より古文書のデジタル化と活用をミッションとした地域おこし協力隊を任用しており、資料を活用したイベントの企画に加え、デジタル化についても先進地の事例等を参考に検討しています。史資料のデジタル化については、膨大な資料をどのようにデジタル化すべきか、全庁的な協議が必要と考えます。	教育委員会
53	P114	5-2-3 スポーツ 【施策分野における現状と課題】 【後期基本計画における施策と展開方針】	【施策分野における現状と課題】 学校教育と同じように、中学生の部活動の地域移行について大きな課題としてあげる必要があるのではないか。 【後期計画における施策と展開方針】 にも、それについて述べる必要があるのではないか。なお、それに関わってスポーツクラブの結成やあり方についても何らかの展開方針を出す必要があるのではないか。			No.7へ記載しました。	文化スポーツ部
54	P116	5-2-3 スポーツ 【後期基本計画における施策と展開方針】 4 スポーツ施設の有効活用	施設の環境を整えるための管理体制を強化することについての記載が必要ではないか。			「施設の環境を整えるための管理体制を強化することについての記載」について検討しましたが、原案にある「スポーツ施設の・・・適正管理に努めます。」が、今ある人員体制の中で更に施設を適正に維持管理していくという意味において「管理体制を強化」することでもあり、「適正管理」が「管理体制の強化」の意味を内包(包含)、または、これに集約されていると考え、原案のままとしました。	文化スポーツ部
55		5-1-1 学校教育 5-1-2 教育連携 5-1-4 青少年健全育成・家庭教育 5-2-3 スポーツ	「中学生の部活動の地域移行」は、土日について、期限が迫っているので、関係する学校教育課・生涯学習課・文化スポーツ部で、連携をとって前に進める必要がある。記述をどのようにするのか、検討してほしい。			No.7へ記載しました。	教育委員会 文化スポーツ部